

「大岳発電所」 日本初の事業用地熱発電

1967年、日本初の事業用地熱発電所として誕生しました。

日本の地熱発電所は、今でこそ九州や東北地方に多く点在していますが、大岳発電所が日本の地熱発電の道を切り拓いたと言えます。

営業運転開始から約50年の間、安定した運転を続けてきましたが、発電設備の老朽化により、2020年に地上の発電設備を全面更新しました。

なお、これまで地下の地熱資源を適切に管理していたことで、地熱資源の力は依然として衰えていなかったことから、地下設備（生産井、還元井）はそのまま活用しています。

地下から取り出す蒸気や熱水の量は変わりませんが、熱水を減圧して更に蒸気を取り出す「ダブルフラッシュ方式」の採用により、従来の発電出力から2,000kW増加させ、地熱資源の更なる有効活用を図っています。

また、更新工事は、既設の発電所を運転しながら、隣接地に新たな設備を建設するビルド&スクラップ方式を採用し、発電停止期間の短縮を図りました。

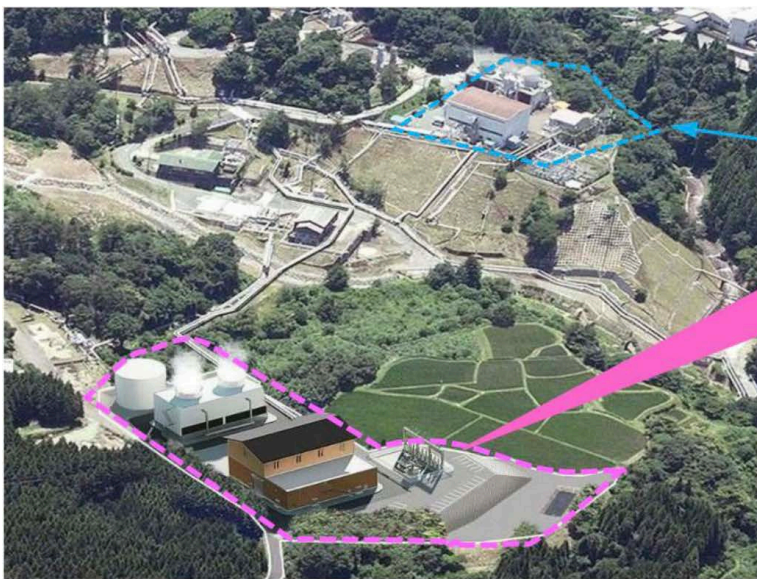


	更新前	更新後
設備容量	12,500kW	14,500kW
所在地	大分県玖珠郡九重町	
運転開始	1967年8月	2020年10月
発電方式	シングルフラッシュ方式	ダブルフラッシュ方式
事業会社	九電みらいエナジー(株)	

更新工事の概要

主な経緯

2013年 9月	環境調査開始
2018年 4月	工事着手
2020年 6月	既設発電所運転停止
2020年 9月	発電開始
2020年 10月	営業運転開始



更新前（既設）



更新後（新設）